

平成 28 年度

# 学 校 評 価

<記入上の留意点>

- 評価Ⅰは教職員、評価Ⅱは校園長、評価Ⅲ・評価Ⅳは学校関係者評価委員の評価を記入する。
- 評価Ⅰは小数第一位まで記入する。評価Ⅱは4段階を基本とするが、0.5刻みまでを許容とする。評価ⅣはABCDで記入する。
- 学校の実態に応じて評価内容を追加して設定することができる。

◎ 評価Ⅰ、評価Ⅱの基準

4	十分達成できた
3	達成できた
2	取り組んでいるが、成果は十分でない
1	取組が不十分である

◎ 評価Ⅲの基準

4	よく取り組んでおり、成果が大きい
3	熱心に取り組んでおり、今後の期待できる
2	取り組んでいるが、成果は十分でない
1	取組が不十分である

◎ 評価Ⅳの基準

A	優れている
B	適切である
C	おおむね適切である
D	要改善

尼 崎 市 立

小 田 中

学 校

## 平成28年度 学校評価

[各校の重点取組について]

・やる気になる、わかる授業と手ごたえのある学習への取り組み

・開発的生徒指導となる道徳教育、自治活動、体験活動の推進

・保護者、地域を巻き込む「共育」活動の推進

### 学校教育に関する重点取組

	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
<b>1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力を身につけさせる</b>  (1) 授業改善の取組を促進するとともに家庭との連携により、学力向上を推進する (2) 特別支援教育の取組を充実させ、自立や社会参加に向けた主体性を育成する	<b>3.5</b>	<b>3</b>
取組とその成果	課題と改善策	
・校内研究授業を年二回(2学期、3学期)行う。 ・研究授業においては、2学期が国語と社会で、アクティブラーニングを視野に入れて行った。 ・概念化シート、指導案拡大シート、マトリックスシートの3グループに分かれて、授業評価し、研究協議を行った。 ・放課後学習(放課後チャレンジ学習)を年間100回程度行う。 ・全学年家庭学習ノートの取組を行う。 ・学校だより、学年だより等を通して、地域、家庭に情報発信する。 ・支援を要する生徒の情報交換を行い、実態把握をして、手立てを考える。 ・講師を招聘し、特別支援教育の研修会を行い、教員の資質向上を図る。	・放課後学習では、理数系教科で、チューターが教えきれない内容がある。また、試験前は参加者が増加するが、その他は少ない。 ・家庭学習ノートにおいては、学習した内容のテストを行える形式を考える。また、保護者の確認サイン欄を設け、家庭学習定着の協力体制をつくる。 ・学校だより、学年だよりが保護者に手渡っているかが不安である。 ・夏季休業中では特別支援教育の研修会に関西国際大学の百瀬先生に講演していただいた。今後も継続した指導をいただきたい。	

	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
<b>2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る</b>  (1) 道徳性育成の取組を促進し、思いやりに満ちた人間関係及び社会とのかかわりづくりに努める (2) 基本的な生活習慣確立の取組を促進し、心身共に健全な育成を図る (3) キャリア教育の取組を促進し、社会的自立に必要な能力を育成する	<b>3</b>	<b>3</b>
取組とその成果	課題と改善策	
・オープンスクールにおいて、道徳の公開授業を行う。 ・人権作文コンクール等に参加し、生徒の人権感覚を養う。 ・講師を招聘し、道徳の実践研修会を行う。 ・道徳の時間のローテーション授業の実施を考える。 ・統合したことを勘案しながら、遅刻対策、授業の規律、風紀指導、あいさつの徹底を図る。 ・スクールカウンセラーによるカウンセリングマインド研修を行う。 ・トライやる・ウィーク等を通して、キャリア教育の取組を行う。	・体験的をもとにした作文も少なからず存在した。体験を重視した指導に変えていく。 ・貝塚南小学校長、川崎先生を迎えて、道徳の授業における実践研修会を行い、道徳の授業の型について研修を深めた。 ・道徳の時間のローテーション授業については、継続して審議していく。 ・行事等の後には、ベル着チェック週間をもうける。	

<b>3 食育や体育を充実させ、健康な体づくりに取り組む</b>	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	3.5	3
(1) 食育を通して生活改善の取組を促進し、望ましい生活習慣を育成する (2) 体育・スポーツ活動の取組を促進し、体力・運動能力の向上を図る		
取組とその成果	課題と改善策	
・教科(家庭科、保健体育)の授業で、食育、体力向上等について指導する。 ・保健室で養護教諭が、対象生徒について、食育、体力について、適宜指導する。	・尼崎市の職員を招いて、家庭科の授業で食事の大切さを啓発した。	

<b>4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る</b>	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	3	3
(1) 安全教育の取組を促進し、登下校及び校内の安全確保を図る (2) 防災教育の取組を促進し、危機管理能力の向上を図る		
取組とその成果	課題と改善策	
・年1回、総合火災避難訓練を行う。 ・1. 17防災訓練(地震、津波)を行う。 ・校内安全点検を行う。 ・通学路での登下校のマナーについて指導する。	・4月に総合火災避難訓練を行った。 (集合に6分5秒、点呼が終わるまでに6分44秒を要した。) ・1. 17防災訓練 (集合に5分6秒 点呼が終了するまでに6分34秒を要した。) 点呼の仕方が課題である。	

<b>5 家庭・地域・学校の連携を深め、信頼され、活力に満ちた学校園づくりに取り組む</b>	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	3	3
(1) 教職員の資質向上の取組を促進し、学校の組織力及び教育水準の向上を図る (2) 地域の教育力を活用した取組を促進し、開かれた学校園づくりを図る		
取組とその成果	課題と改善策	
・校内研究授業を年二回(2学期、3学期)行う。 ・今年度は、「アクティブラーニング」を視野に入れて行う。 ・講師を招聘し、特別支援教育の研修会を行い、教員の資質向上を図る。 ・講師を招聘し、道徳の実践研修会を行う。 ・学校だより、学年だより等を通して、地域、家庭に情報発信する。 ・生徒会が参加する社会力育成事業において、生徒会の取り組みの方向性を模索する。 ・生徒会による地域へのあいさつ「あいさつ活性化」で、毎週水曜日に地域であいさつ運動を行う。	・アクティブラーニングの概念がまだ、教職員に理解されていないので、基礎的な部分を研修する必要がある。 ・放課後学習では、理数系教科で、チューターが教えきれない内容がある。 ・生徒会による地域へのあいさつ運動を週1回行ったが、市民の目は生徒の方へと向かなかった。	

教育目標		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		(1) 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 教育目標の具現化と指導の充実	3.5
取組とその成果	課題と改善策		
・学力向上、心の教育、心身共に健康な生徒の育成を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後学習では、理数系教科で、チューターが教えきれない内容がある。また、試験前は参加者が増加するが、その他は少ない。</li> <li>・家庭学習ノートにおいては、学習した内容のテストを行える形式を考える。また、保護者の確認サイン欄を設け、家庭学習定着の協力体制をつくる。</li> <li>・人権作文コンクール等に参加し、生徒の人権感覚を養う。</li> <li>・講師を招聘し、道徳の実践研修会を行う。</li> </ul>		

研究テーマ		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		(1) 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 研究テーマの具現化と指導の充実	3
取組とその成果	課題と改善策		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研究授業を年二回(2学期、3学期)行う。</li> <li>・今年度は、「アクティブラーニング」を視野に入れて行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アクティブラーニングの概念がまだ、教職員に理解されていないので、基礎的な部分を研修する必要がある。</li> </ul>		

		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
取組とその成果	課題と改善策		

## 学校関係者評価

※ 評価Ⅲの基準

4: よく取り組んでおり、成果が大きい  
2: 取り組んでいるが成果が十分でない

3: 熱心に取り組んでおり、今後が期待できる  
1: 取組が不十分である

学校関係者意見等	評価Ⅲ
<p>1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力を身につけさせる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習内容をいろいろ工夫され、学力アップにつながるよう努力されている。</li> <li>・滑舌のある話し方、声の強弱、目の引く授業をしてほしい。</li> <li>・研究授業、放課後学習等に取組、地域、家庭にも情報発信を行っている。家庭学習の充実をどう図るかである。</li> <li>・1年時より、勉強する環境づくりがもっと必要である。</li> <li>・新しい学校になったので、抜本的な改革が必要であると思う。</li> </ul>	3
<p>2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体験活動や作文など、心の声をきくための手立てを見つけれ、すばらしい。</li> <li>・体験や実践を重視し健全な育成をして欲しい。</li> <li>・道徳教育の充実をどう図るか、基本的生活習慣の充実をどう図るか、これは地域、家庭との関係もあるので、協力してやっていく必要がある。</li> <li>・人と人との「会話」をもっと重視したカリキュラムがあればいいと思う。</li> </ul>	3
<p>3 食育や体育を充実させ、健康な体づくりに取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな場面で、取組の成果が見られる。(体育大会、トライやる・ウィーク等)</li> <li>・家庭内教育(早寝、早起き、朝ご飯)の大切さを感じます。</li> <li>・食育については生徒本人のアレルギー等と関係するし、家族との関係もあるので、本人、家族のことをよく理解してやる必要がある。</li> <li>・子どもに対してもそうであるが、親に対しても食育というものを理解してもらおうことが大切である。</li> </ul>	3
<p>4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登校時のマナーについては、保護者にプリントを出され、家庭でも交通マナーについて、懸案されたことはすばらしい。</li> <li>・教員、生徒が来訪者に対して、気配り、目配り、声かけで抑止力になるのではない。</li> <li>・自分の身は自分で守る。余裕があれば、他人のことも考えられる様に指導していく。</li> <li>・日々の意識、訓練が大事である。</li> </ul>	3
<p>5 家庭・地域・学校の連携を深め、信頼され、活力に満ちた学校園づくりに取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭の協力が不十分で学校ばかりが頑張ってもというのが本音です。</li> <li>・教員、生徒が元気でない。まずは、教員からあいさつ運動を実践してみようか。</li> <li>・学校、家庭、地域をつなげるコーディネーター役の活用が大切である。</li> <li>・学校教育にとって必要なことは、生徒理解、家庭理解、地域との協力である。生徒、家庭、地域とよくかかわることである。</li> </ul>	3
<p>■教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校長の悲願である学力向上や長期欠席者0になるよう、家庭、地域、教員の努力が必要である。</li> <li>・教育目標達成のために、学校教育を行っている。教員が教育目標をしっかりと理解し、その実現のために、いかに実践するか。</li> <li>・生徒自ら勉強をしなければならないという意識づけができる何かがあれば良いと思う。</li> </ul>	3
<p>■研究テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アクティブラーニングの活用を大いに期待している。</li> <li>・教職員が、しっかりと協議して、何をテーマにするか決定すべきである。どこまでできるかしっかりとやってほしい。</li> <li>・アクティブラーニングが本当にできるようになれば、高校受験までに役立つことが多いと思う。今後期待する。</li> </ul>	3
<p>■</p>	
<p>評価項目 (A: 優れている B: 適切である C: おおむね適切である D: 要改善)</p>	<p>評価Ⅳ</p>
アンケート等、自己評価の根拠となる資料は適切か	B
自己評価の結果の内容は適切か	B
自己評価の結果を踏まえた今後の改善策は適切か	C